

2017 年 2 月 26 日

NHK 経営委員会 委員長 石原 進殿
NHK 会長 上田 良一殿

要 望 書

2・26「いま、NHK に言いたいこと」市民集会

私たちは、この 3 年間、公共放送についての認識を深めようとしないうちに NHK 会長の下にありました。NHK は、民主主義社会における言論機関としての使命を欠いた状態に置かれ、放送法の精神が蹂躪されてきたことは残念であり、NHK の歴史の中に「負の遺産」として記録されるべきであると考えます。

新会長におかれましては「失われた 3 年間」を取り戻し、「文化としての放送」の創造へ、市民的基盤に立つ放送局として直面する諸課題に対処されることを期待してやみません。

もとより私たちは、受信料制度に立つ公共放送が、今日の日本社会において大きな社会的役割が課せられていることを確信いたします。メディア環境が大きく変わる中で、NHK にそのことを期待する市民運動はこの 3 年間で大きな広がりを見せています。

私たちは、新体制の出発にあたり、NHK 経営委員会と NHK 会長に対し、NHK が「市民の知る権利」に応える組織としての体制を構築されるよう以下の通り切望いたします。

- 1 経営委員会及び会長は、「放送法の精神」を尊重し、「放送の自主・自律」「放送による表現の自由の確保」に組織的に取り組むこと。
- 2 国営放送と公共放送の違いを明確にし、政治的干渉に左右されることなく、時の政権の姿勢を忖度することなく、国民的期待に応えること。
- 3 「籾井体制」「2001 年 ETV 番組改変事件」など政治権力との関連での「負の遺産」を組織として受け止め、2 度と繰り返すことのないようにすること。
- 4 昨年度の NHK 予算国会審議において、課された付帯決議「会長の選考過程の改善勧告」を真摯に受け止め、会長の選考過程を市民に開かれたものにする努力をすること。

以上